

やく お薬立ちmemo



解熱鎮痛剤の種類と注意点

—高齢者や腎臓に不安のある方へ—

発熱や頭痛、関節の痛みなど、日常生活の中で「解熱鎮痛剤」を使用する機会は少なくありません。

市販薬として手軽に購入できる一方で、体の状態によっては注意が必要なお薬でもあります。

今回は特に、高齢の方や腎臓の働きに不安がある方に向けて、安全な使い方のポイントをお伝えします。



やく お薬立ちmemo



解熱鎮痛剤とは

解熱鎮痛剤は、熱を下げたり痛みをやわらげたりするお薬です。

代表的なものには

「アセトアミノフェン」:

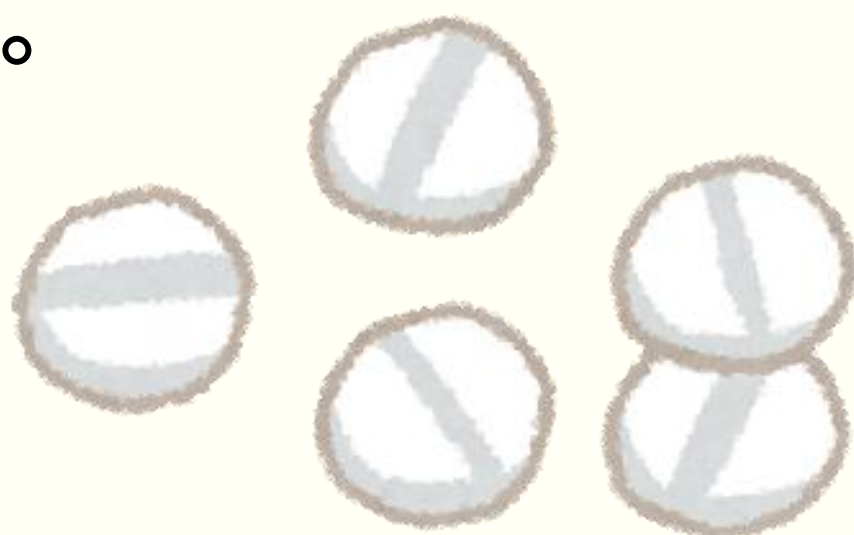
代表的な商品名(カロナールA[®]、タイレノールA[®])

や

「NSAIDs(エヌセイズ:非ステロイド性抗炎症薬)」:

代表的な商品名(ロキソプロフェン(ロキソニンS[®])イブプロフェン(イブ[®]))

と呼ばれる種類があります。



やく お薬立ちmemo



高齢者の方が気をつけたいこと

高齢者では加齢に伴い腎機能が徐々に低下していることが多く、検査値が正常範囲内でも実際の腎機能は若い方より低い場合があります。

そのため、「市販薬だから大丈夫」と自己判断で連用するのではなく、できるだけ医師や薬剤師に相談することが望ましいです。

特に注意したい点は以下の通りです：

- 胃腸への負担：NSAIDsは胃痛や胃潰瘍の原因になることがあります
- 複数の薬との飲み合わせ：持病の薬との相互作用に注意が必要です



やく お薬立ちmemo



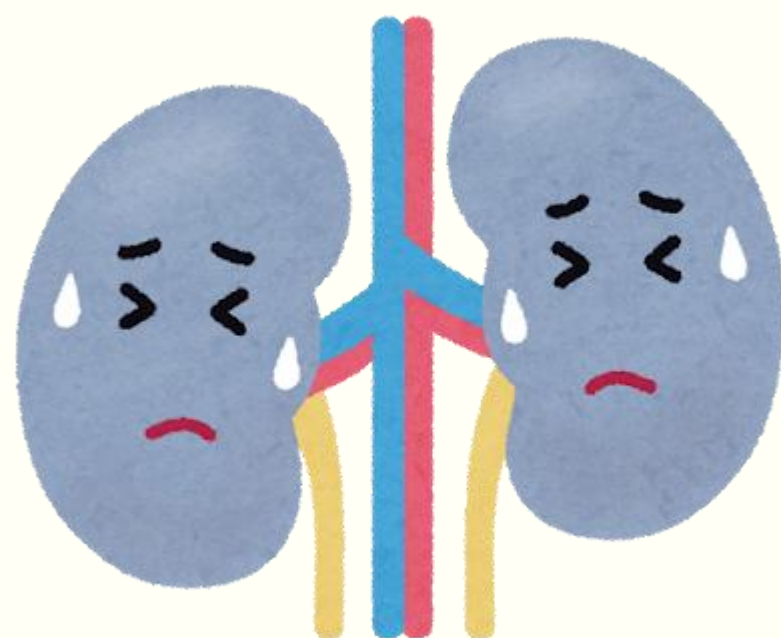
腎臓に不安のある方へ

腎臓は体の中の老廃物や薬を排出する重要な臓器です。腎機能が低下している場合、特定の解熱鎮痛剤は腎臓に負担をかけ、状態を悪化させる可能性があります。

特にNSAIDsは、

- 腎臓の血流を低下させる
 - 急性腎障害を引き起こす可能性がある
- といったリスクがあります。

腎臓に持病がある方や、健康診断で腎機能の低下を指摘されたことがある方は、自己判断での使用は避け、医師や薬剤師に相談しましょう。



やく お薬立ちmemo



比較的使いやすい薬は？

一般的に、アセトアミノフェンは腎臓や胃への負担が比較的少ないとされています。ただし、これも用量を超えて使用すると肝臓に影響が出る可能性があるため、決められた量を守ることが重要です。

こんなときは相談を

以下のような場合は、医療機関や薬局の薬剤師にご相談ください：

- 痛みや発熱が長引く
- 複数の持病がある
- 他にも薬を服用している
- どの薬を選べばよいかわからない



やく お薬立ちmemo



まとめ

解熱鎮痛剤は正しく使えば心強い味方ですが、体の状態によっては注意が必要です。特に高齢者や腎臓に不安のある方は、「自己判断での継続使用」を避け、専門家に相談することが安全につながります。

日頃から「お薬手帳」を活用し、ご自身の体に合った安全な薬の使い方を心がけましょう。

